

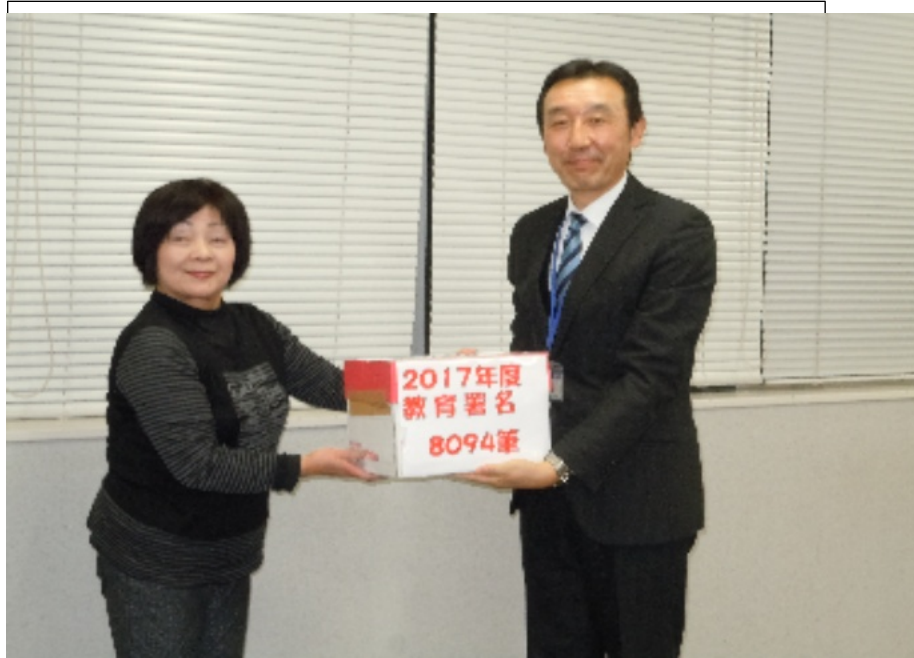
# 越教組ニュース

越谷市教職員組合  
情宣部  
16. 03.14 (水)  
tel 988-3281  
FAX 988-3283

## 願いのこもる署名八〇九四筆を提出

二月二十三日、今年も「越谷市にも三〇人学級の実現を」の署名八〇九四筆を携えて、教育委員会に訴えました。提出には、保護者代表七名と越教組代表五名、計十二名が参加しました。署名を受け取った滝田学校教育部長は、「少人数学級への思いは同じ。ただ財政が厳しく、市独自の少人数学級は難しい」という趣旨の見解を示しました。

# 越谷でも30人学級を



越谷では教職員組合、保護者、市民の有志が中心となり、少人数学級に消極的な姿勢を続け、二年から粘り強く署名活動を続け、十六日を迎えました。

席上三名が発言をし、学校の忙しさ解消の必要性や、子どもたち一人一人に目が届く教育の重要性を、保護者や教師の立場から訴えました。市教委の滝田学校教育部長からは、「ここに出席している(市教委の)者は全て元教員で、少人数学級の重要性は分かっています。少人数学級を望んでい

る意見をまとめる苦労は大変だったと思う。私たちも実現させたく思うが、財政面で市独自というのには難しい。ただ思いは受け止めたい。引き続き国や県に要望していきたい。」という発言がありました。

例年になく少人数学級の重要性を評価した発言でしたが、来年度も市独自の計画がないこと、県や国頼みであることを明らかにしました。組合は、本当に大切なことならば、校舎の耐震化やアスベスト除去のようになんとかやりくりを



して予算をつけられるはずであると考えています。引き続き、市に、県に、国に、粘り強く運動を進めていきます。

## 二〇一八年春闘始まる 越谷地域総行動

二月二十七日、越谷松伏地区の一〇以上の団体が市内二か所に分かれ、活動報告と春闘に向けての要求を出し合い、交流を深めました。

越教組の発言は次の通りです。(中央会場)

今回は、改憲と教育との関わりに絞って発言します。与党は二月下旬、教育分野に関する憲法改正案(以下「案」)を大筋で了承したとされま

す。それは、現在の憲法二六条を二つに分け、さ

らに第三項を設けるというものです。第三項は、「国は、教育が国民一人一人の人格の完成を旨とし、その幸福の追求に欠くことのできないものであり、かつ、国の未来を切り拓く上で極めて重要な役割を担うものであることに鑑み、教育環境の整備に努めなければならない。」というものです。一見やさそうな条文ですが、毒があります。

## 脳科学者から学校への進言

社会問題化している心の病の増加が背景なのか、脳科学者の書いた本の出版が目立つ。心理学者のそれより一歩踏み入れ、脳内伝達物質を積極的に登場させ、クールの感情を細解していくのが特徴だ。

その中でも最近「ロマンティック」をやらめられた「シャーンロイデ」(他人を引きずり下ろす快感)と相次いで出版し、教育界に一石を投じているのが、中野信子氏だ。同氏は「ロマンティック」にも多々「NHBS 英雄たちの決断」にも準じギョウ的な扱いで出演しているのを見て「存じの方も多々いるのでは?」

同氏は二冊の本の中で「ロマンティック」や「ロマンティック」や「ロマンティック」をトシや快樂ホルモン「ロマンティック」を駆使して説明、その根深さを伝えてい

る。特に日本人には脳内物質に違い周辺に欧米人との違いが顕著だという研究結果は衝撃だ。欧米人と比べ「ドーパミン」の分解酵素の活性が低く、不安を和らげる「セロトニン」受容体の密度が低いことが、「ロマンティック」や「ロマンティック」の問題を重くしている。後半には問題への対処策が掲載されているが、改めて教育現場の難しさを実感する。

非常に興味深い見解である。この内容を絶対視するだけでも、危険だ。著者も望んでいない。一つの進言として受け取り、考えたいことが大切だろう。あくまでも現場を生き抜いていくのは我々なのだから。

投稿S